

# 人体に有害なVOCガス

## 処理装置事業に参入

### 独自構造で95%分解

#### 加藤電気炉材製造

加藤電気炉材製造(土岐市妻木町、加藤義一社長)は、人体に害のある揮発性有機化合物(VOC)ガスの分解処理装置事業に参入した。加熱したハニカム(蜂の巣)構造のセラミックスで分解する独自構造を採用した小型の装置を開発。小型ながらガスを95%分解処理できる機能を武器に売り込む。



開発した小型のVOCガス分解処理装置。土岐市妻木町、加藤電気炉材製造

VOCガスは、印刷や塗装、ラミネート工程などで発生する。従来機は、VOCガスをバーナーで燃焼して分解する。このためバーナーの温度を800度以上に上げる必要があり、爆発の危険もあった。

開発した装置は、300度で均一に加熱したハニカム構造の炭化ケイ素(SiC)製セラミックスを通過させ、その後、白金の触媒フィルターを通過させることで分解する。処理能力は毎時80立方メートル、価格は241万5千円。処理能力が毎時1200立方メートル以上に対応する。特注で対応する。

採用した構造は、岐阜大学、県保健環境研究所、TYKと共同で開発した。同社は断熱レンガや焼却炉などを手掛ける。2012年9月期の売上高は、約3千万円。断熱レンガなどは市場縮小とともに販売が伸び悩んでおり、新たな事業の柱が必要だと見ている。同装置に取り組むこととした。

## 超精密 平面研削盤を発売

精度と機能の違いを実感してほしい」と、自信と期待感を示した。

## ヒマラヤ各務原オープン

### 新コンセプトのフラッグシップ店



特売品を買い求める来店客—各務原市小佐野町、ヒマラヤ各務原インター店

焼却炉などを手掛ける。2012年9月期の売上高は、約3千万円。断熱レンガなどは市場縮小とともに販売が伸び悩んでおり、新たな事業の柱が必要だと見ている。同装置に取り組むこととした。

## 航空機部品 宙展

するセミナー。ポスターセッションも予定されている。

◆勝ち組 M&Aセ 立銀行、 21日午後 名古屋市

展開した。この日から43分前の午前は倒壊し、物客で

ぎふイテ押し